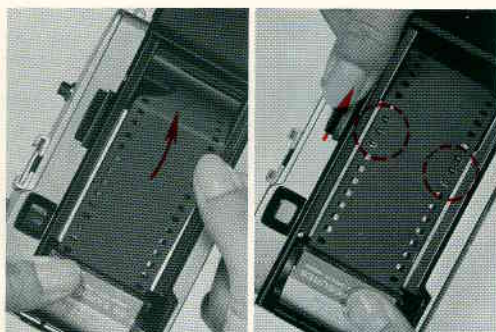




ゾーンフォーカス
マーク直視窓 →

ゾーンフォーカス
マーク

距離 1 m 1.5 m 3 m ∞

被写体 クローズポートレート グループ風景
アップ(半身像) スナップ遠景

※ 人を通り越して止まったところは最近接で90cmです。

3. フィルムがしっかり入っていることを確認し、裏蓋を閉じます。

左手でバトロローネを軽く押さえながら、右手でフィルムを持って少し引出し、その先端を巻取りスプールの溝に差込みます。差込みやすい溝ならどれでも結構です。次に右手で巻上ノブを止まるまで回し、リリースボタンを押して空写しを行います。フィルムのパーフレーションが両側ともスプロケットの歯にしっかりかかることを必ず確認してから、裏蓋を静かにバチリと閉じて下さい。ここで念のため巻戻しクラックを起し、矢印の方向にノブが重く感じるまで軽く回して、フィルムのたるみをとっておきます。

4. フィルム駒数計を1に合わせます。

ここで空写しを更に2~3回行い、フィルム駒数計が1を指すようにします。これから撮影に行きます。この空写しの途中で巻上ノブが巻上につれて回っていれば、フィルムは正しく送られていることになります。



フィルム駒数計は順算式で、写し終ったフィルムの駒数がダイダイ色の線の先に表示されます。目盛はS(スタート)から1、2、4と以下偶数から36まで打ってあり、フィルムを巻上げると駒分づつ動きます。撮影が終わって裏蓋をひらくと、フィルム駒数計は自動的にSの位置に戻ります。

5. フィルム感度を合わせ、A(自動)にします。

鏡胴の先端のASA環を回して、ASA窓に使用するフィルム感度(ASA)ができるようにします。例えばSSフィルムなら100に合わせます。次に絞り環を回して、A(自動)を赤指標に合わせます。クリックストップ



エー・エス・エイあるいはアーサーと読み、最も一般的に使われているアメリカ規格のフィルム感度表示です。特にトリップ35のようなEEカメラでは、フィルムの外箱に記載されているこのASA数値を間違えずにカメラにセットすることが、適正露出を得るための大切な条件になります。なおASA32のフィルムを使用する場合は、ASA40を代用して下さい。

6. ピントを合わせます。

写したいもののまでの大体の距離を目測し、距離環を回して、適当なゾーンフォーカスマークを赤指標に合わせます。またファインダー内の右下に小窓があり、そこからゾーンフォーカスマークが見られ、ファインダーをのぞいたままでも、ピント調節ができます。一般の撮影の場合は、に合わせれば、いちいち距離を合わせなくても、大いピントが合うようになっていますので大変便利です。フラッシュ撮影や精密なピントが必要なときは、ゾーンフォーカスマークとちょうど正反対の裏側にある距離目盛をご利用下さい。

7. ファインダーをのぞきます。

カメラをしっかり構え、ファインダーをのぞいて構図を決めます。写したい被写体が、ファインダーの白い光枠の内側一杯に入るようにして下さい。

- 1m以内の近接撮影のときは、光枠内部の小さな指標がかこむ範囲に、写したいものが入るようにします。
- また写したいものが暗すぎて、EE(自動露出)の限界外ならば、赤いマークがでて警告を発し、シャッターは切れません。このような場合は、フラッシュ撮影をして下さい。(フィルムを巻かなくても、リリースボタンを押して赤マークが出るかどうか確認することができます)
- カメラは、下の写真のようにしっかり構えて下さい。特にリリースボタンを押すときは、指を立てずに、指の腹で静かに押し下げるのがコツです。



- ヨコ位置にカメラを構えるときは、両手をカラダにしっかりつけて下さい。
- タテ位置のときは、右手をカラダにしっかりつけ、左手でカメラが動かないように保持します。